

栃木県大田原市教育委員会の「つくる会」主導の
歴史・公民教科書（扶桑社版）採択に抗議し、撤回を求める声明

2005年7月13日

教科書問題を考える会
フォーラム平和・人権・環境

本日、7月13日(水)の新聞報道で、栃木県大田原市教育委員会において「つくる会」主導の扶桑社版歴史・公民教科書の採択が決定されたことが報じられました。

私たちは、前日の7月12日に大田原市教科書採択協議会が扶桑社版歴史・公民教科書を選定したことに對し、平和フォーラム「教科書問題を考える会」として不採択を求める要請を行ってきました。このことについて、多くの市民団体、近隣諸国からも抗議や要請が寄せられています。

しかし、公民館で開催された大田原市教科書採択協議会は、会議室のカーテンを降ろして、出入り口には、2人の職員を立たせた監視体制というまったくの秘密会議のなかで行われるという異常な状況でした。そして、教科書選定した後、会議室から出てきた十数名の選定委員は、逃げるようにしてその場を立ち去ったということです。

報道では、大田原市は1市単独で採択協議会を作っていて、同市の教科書採択協議会の調査委員会は、8社ある中学歴史教科書のうち2社を推薦、そのうち「新しい歴史教科書をつくる会」主導の扶桑社教科書が「日本文化に対する誇りと愛情をはぐくむよう配慮されている」などの声が多く、望ましいとする報告書をまとめたということでした。

また、本日開催された教育委員会も非公開で行われ、採択の決定後もマスコミには情報を公開したものの、現地につめかけた市民等には一切説明をしなかったとされています。

この「つくる会」主導の扶桑社版歴史・公民教科書は、人権を軽視しており、アジア太平洋戦争において日本が行った侵略・植民地政策を肯定し、美化する記述となっています。このような戦争責任を否定した記述に対して中国・韓国などアジア諸国との深刻な外交・経済問題に発展し、各方面からも批判の声があがっています。このような教科書が採択されたことは、国際理解・国際協力の流れに逆行し、アジアとの平和や友好関係を大きく損なうものにほかなりません。

今回の大田原市教育委員会の採択によって、さらに中国・韓国などアジア諸国との緊張関係が高まり、深刻な経済問題へ発展することが予想されます。そのような直面する経済問題にどのような責任をとられるのでしょうか。

また、この扶桑社版教科書の検定申請本（白表紙本）が文科省検定中にもかかわらず、規則に反して教育委員会関係者に流出した問題で、扶桑社は文科省から3回にわたり指導を受けていたことが判明しています。そのような、明確に規則に違反した教科書を採用することは許されません。

日本は、先の戦争の大きな犠牲のなかから、「平和主義、民主主義、基本的人権の尊重、男女平等」などを国の基本理念に据えました。私たちは、これらの基本理念を社会で実現させ、未来を生きる子どもたちへしっかりと引き継いでいく責任があります。国際社会では戦争を違法化する努力が前進し、この地球上から戦争をなくしていくのが人類の課題となっています。自国中心の偏った歴史学習では、豊かな国際性につながりません。子どもたちにアジア諸国をはじめ、世界の平和、共生社会の実践をめざす意欲・実践力を育む教科書を採用すべきです。

私たちは、きわめて不透明な密室会議において、このような重大な問題をかかえた教科書を採択したことに断固抗議するとともに、大田原市教育委員会に対して、あらためて決定の撤回を要求します。